

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム V2.7.0 (2016) | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大須テナントビル 新築工事	階数	地上12F
建設地	愛知県名古屋市中区大須四丁目1038番4、1039番1、1039番2	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内 市街化区域、防火地域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2024年1月30日
敷地面積	366㎡	作成者	
建築面積	210㎡	確認日	2024年1月30日
延床面積	2,307㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

92% 92% 92%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア=3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア=2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア=2.2

**LR のスコア = 2.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア=3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア=2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	室内環境や建物性能などで利用者が快適に過ごしやすい環境になるよう配慮している。	その他 特になし
Q1 室内環境	大きい窓を設置し光が入る設計にしている。	Q3 室外環境(敷地内) 設備の室外機はほとんど屋上に設置し高い位置からの排熱に努めている。
LR1 エネルギー	BEI0.89と省エネ基準を満たしている。	LR3 敷地外環境 日常的に発生するゴミの種類や量を推計しゴミ処理負荷低減対策の計画をしている。
Q2 サービス性能	天井高に余裕があり、建築の利用者は空間を広く感じ、景観を楽しむことができる。	
LR2 資源・マテリアル	ODP=0の冷媒を使用し地球温暖化対策に取り組んでいる。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)大須テナントビル 新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>2.5</b>
LR1	エネルギー	2.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.4</b>
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 2.5
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 1.3
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 2.4

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。